

「前立腺癌永久挿入密封小線源療法における術中連結型線源導入後の学習曲線に関する調査：多施設共同後ろ向き研究」へご協力をお願い

—平成 24 年 3 月 1 日～平成 25 年 11 月 30 日までに当科において前立腺癌永久挿入密封小線源治療を受けられた方へ—

研究機関名 岡山大学
責任研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 放射線医学 教授 金澤 右
分担研究者 岡山大学病院 放射線科 助教 片山 敬久
岡山大学病院 泌尿器科 助教 高本 篤
岡山大学病院 新医療研究開発センター 教授 那須 保友
姫路赤十字病院放射線科 部長 武本 充広

1. 研究の意義と目的

永久挿入密封小線源療法に使用する密封小線源は分離型と連結型の 2 種類があります。2 種類とも海外では標準的な線源として広く使用されていますが、本邦では薬事の関係で連結型線源の導入が遅れていました。しかし 2012 年 8 月より本邦でも、それまで使用していた分離型線源に加え連結型線源の使用が開始され、世界標準の線源が 2 種類とも使用できるようになりました。連結型線源を使用し始めることによる変化や、連結型線源の使用に習熟するまでの期間、それらに影響する因子を過去に行われた治療のデータをもとに解析することで、今後あらたに連結型線源を導入する施設（病院）に有益な情報を提供できます。全体として本邦における前立腺癌の治療成績の向上に貢献することが期待されます。

術中連結型線源を導入した本邦の各施設で、導入前後の線量分布・手術時間・迷入線源数などの変化を調査し、術中連結型線源の使用に習熟するまでの学習曲線を評価します。学習曲線に影響を及ぼす因子について解析します。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

平成 24 年 3 月～平成 25 年 11 月に岡山大学病院を受診し、前立腺癌永久挿入密封小線源治療をうけた患者

2) 研究期間：

平成 26 年 3 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日

3) 研究方法：

カルテに保存されているデータを収集して行う研究です。本研究は、当院の倫理委員会の承認を得ております。この研究は、ヘルシンキ宣言（2008 年版）・臨床研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省合同）を遵守します。

4) 調査票等：なし

5) 情報の保護：

解析にあたっては、個人情報には匿名化し、その保護には十分配慮します。学会や論文などによる結果発表に際しては、個人の特長が可能な情報はすべて削除されます。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院放射線科

氏名：片山 敬久

電話：086-235-7313 ファックス：086-235-7316